

平成 26 年度第 2 回湖南省総合計画審議会

議事要約

日 時	: 平成 27 年 2 月 20 日 (金) 午後 2 時～ 4 時
場 所	: 共同福祉施設 2 階 大会議室
出席者	: 委員 15 名
欠席者	: 10 名

1. 開会 (事務局)

第 2 回湖南省総合計画審議会を開会する。
過半数以上である 15 名の出席を得ており、成立。
第 1 回審議会を欠席の委員の自己紹介。(省略)

2. 会長あいさつ (要旨)

皆様こんにちは。本日は第 2 回目の審議会ということで委員の皆様にお集まりいただきご苦勞様である。

第 1 回目の審議会から随分と時間が空いた。この間に、市の方ではアンケートを実施し、また、わかもん委員会もスタートしているようである。

今回はアンケートの結果に基づきながら、市民の意向を踏まえてこれから策定していく総合計画について本格的な議論が始まることになる。第 1 回目の審議会を欠席の委員もいらっしゃるようだが、今日から本格的な議論を開始するということになるので、どうぞよろしくお願ひしたい。

3. 審議

- 1) 社会動向について (資料 1)
- 2) 現況と動向について (資料 2)
- 3) まちづくりアンケート調査について (資料 3-1、3-2、3-3)
(事務局より上記について説明) (省略)

●会長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないだろうか。

●委員

確認のために質問をさせていただく。湖南省の人口は約 5 万 5 千人である。全国に同規模の市は 80 強ある。この 80 強の中に湖南省がモデルや目標としている市はあるだろうか。

●事務局

特にモデルや目標としている都市はない。

●委員

モデルがないということは、オリジナリティに富む、豊かで創造的な都市にしたいという理解でよろしいか。

●事務局

委員のご意見のとおりであり、総合計画を市のグランドデザインとしてまちづくりを進めたい。

●委員

資料1の社会動向について、2番目に掲げられている「安全・安心の再構築が求められています」の中の記述で、「…鳥インフルエンザ、エボラ出血熱等の感染症など…」とあるが、感染症は非常に幅が広く、その中でも重症化するのは36症あるので、ここで敢えて鳥インフルエンザやエボラ出血熱を具体的な例として書く必要はないのではないだろうか。「重症化する感染症など」といった表現で済むのではないだろうか。

●事務局

委員のご意見のとおり、最近、問題になった感染症と言うことでエボラ出血熱を書いたまでのことであり、ご指摘を踏まえて修正させていただきたい。

●会長

国レベルで対応すべきもの、自治体レベルで対応すべきものがそれぞれにある。そういったことも考慮して敢えて書かなくても良いだろう。

●会長

事務局からアンケート結果の概要について説明があったが、5年前と比べてこういうところに変化があった、変化がなかったという点などを補足説明していただきたい。

●事務局

まず、資料3-1の6ページの住みごごちについて、「どちらかという住みやすい」と回答した割合はあまり変わらないが、「住みにくい」、「どちらかという住みにくい」が減っており、少しずつ「住みやすい」と感じている人が増えている。

11ページの住みやすい理由として、半数以上の方が、湖南省が安全で安心なまちだから、と感じている。

また、これまで住みやすい理由のトップ5に入らなかった「子育て環境が良いから」が入ってきており、子育て環境の評価が高まってきている。

一方、あまり、変わらなかった点として、住みにくい理由の「交通が不便だから」、「買い物が不便だから」、「医療・福祉のサービスや施設が十分でないから」は、前回同様に上位3つとなっている。

買い物が便利と答えている方もあるが、22ページに掲載の中学生の意見でも買い物が不便となっているので、車で買い物に出かけられる人にとって買い物が便利であるが、子供

を含め車の運転ができない方にとっては買い物不便ということだろうと想定される。

バスなどが不便というのも、前回とあまり変わらない傾向だろうと思う。

●会長

他に特にご意見がなければ、先に進めることとするが、また、後ほど、気がついたときにこのアンケートに戻ってご質問いただいても構わないので、どうぞ、その時はよろしくお願ひしたい。

4) 後期基本計画の実施状況の整理、評価について(資料4-1、4-2、4-3)

5) まちづくりの主要課題の整理について(資料5)

(事務局より上記について説明)(省略)

●会長

議題4として、これまでの計画の進捗評価について、また、議題5として、これからの市の計画の柱につながる課題に関する説明をしていただいた。これについて、何かご質問やご意見はないだろうか。

●委員

他の皆様からご質問がありませんので、今さらかもしれませんがご質問させていただく。3つの視点、6つの目標など、きれいに体系がまとめてあるが、どのような体制でまとめたのだろうか。

●事務局

資料6でご説明させていただこうと考えていたところである。第1期の総合計画の43ページのお話だと思うが、事務局としては、基本的に今回も第1期の構成・形を踏襲する方向で基本構想を策定したいと考えている。

●会長

よろしいだろうか。

●委員

もっと詳しくお聞きしたいと思うが、時間の都合もあると思うので結構である。

●会長

現行計画の評価で星が2つとか3つとかで表現されており、例えば資料4-2の1-①で「まちづくりに関するルールの制定」とあるが、これは制度をつくることができたのか、できなかったのか、ということで評価できるものである。

下の方に掲載されている「市民、起業、行政の協働事業の推進」については、協働事業そのものが進んだかどうか、が成果の評価になるものである。「市民参加の促進」についても、本当に市民の参画が進んだかどうか、外形的に評価ができるものと、中身が本当に進んだかどうかを評価すべきものがある。市民のコミットメントとして、パブコメやタウンミーティングは実施したが、本当に市民参加が進んだかどうかは、それが実施できたかど

うかだけでは、評価が難しい。これを実施したことによって市民の行政への関心が高まったのであれば、評価は高まると思うが、実施しただけでは、星3つは与えられないのではないだろうか。仕組みをつくったかどうか、だけでなく、施策の効果が実際に上がったかどうかを、厳しく見なければならぬ点もある。今後、参考にさせていただきたい。

資料5は、どれも欠かすことのできない非常に重要な論点であるが、一方で、人口は減っていく。人口が減っていくということは、様々な施策を支える人的、財政的リソースはしぼんでいく。これを片方で認識しておかなければならない。その点で、この11の課題が重要であれば、行政はこのうち、どれについて最も責任を持つべきか、市民が自発的に担っていかなければならないものはどれか、見えるようにしてはどうか。残念ながら全てを市が責任を持って進めることはできない。これからは、そのような欲張りなことは難しく、現実路線を見据えなければならぬ。奇麗事を並べてどれも進まないという恐れがある。そういったことに陥らないように、委員の皆様もシビアに見ていただきたい。

●委員

アンケート調査結果を見させていただいて感じたことを述べさせていただく。これを分析してどのように生かす目的だったのだろうか。

●事務局

基本的には、市民の意向に基づいて、計画に反映させていただきたいと考えて実施した。

●委員

わかもん委員会の成果も見させていただいたのだが、もう少し中身を濃くしていただきたいと感じた。せっかく時間を割いて一生懸命やっていたので、指導する側も若者も、もう一步踏み込んでやっていただくと、計画へのしっかりとした反映も可能になるだろうと感じる。

●委員

会長のご意見に関連して、仕組みを作ったら完了という市の勘違いがあるのではないかと勘ぐってしまった。次の計画に反映したいという発言もあったが、そのためには、結果だけでなく各事業の運営の過程でのモニタリングなどが必要になると感じる。そのあたりはどのように考えているのだろうか。

また、この総合計画に関して担当職員の方は、どのくらい直接執行されているのかを知りたい。当然、アウトソーシングされていると想定するので、確認させていただきたい。

●事務局

委員ご指摘のように、資料4-3をご覧くださいと、行政活動の結果として指標が客観的に出てくるものと、パブコメがあるから市民が参加しているという思い込みと認識される部分があるのではないかと、というご指摘だと理解したが、どうしても成果を客観的に図ることの難しさがある。具体的に数字を出すのが難しい面があるとご理解いただきたい。モニタリングなどについては、例えば、アンケート調査が一つのモニタリングになると考えている。

総合計画の策定過程への職員の関わり具合については、各課の担当者による作業部会を設け、自分たちの業務に関する部分はそれぞれ職員自らが作り上げている。

●委員

私は旧の婦人会を続けている者である。自分たちのこと、と考えてまちづくりに参加する意識付けが大事である。しかし、普段の生活の中でそういった意識を高めることが難しい。

市長や議員が誰になっても、まちは変わらない、と思うと選挙にも行かない。湖南省を自分たちの町として良くしたいという想いはなかなか生まれない難しさがある。

公募委員の仕組みはあるが、レポートの提出や昼間の会議など、ハードルが高い。また、女性はまちづくりのことを男性に任せてしまう傾向もある。それでは、このまちがどうにかなってしまうよ、という意識付けはどうすれば良いだろうか。

子育て一つとっても、自分の子供なのに、どうにかしてよこの子、という親が増えているという話もある。まちづくりも自分のことだと考えることが重要である。少し論点がずれているかもしれないが、感じたことを言わせていただいた。

●会長

ずれているどころか、核心だろうと思う。これまでは、行政に任せておきなさい、という傾向があったが、これからは、行政に任せておいて上手くいくかということそうではない。行政の力もそれほど強くない、財政もそれほど強力ではない。

子育てや防災などを考えても、行政に任せておくだけでは済まない。自分たちのまちは自分たちで作っていくという意識が重要である。そのためには、市民参加を推進する必要がある。これまでの市民参加推進だけでは、多くの人の参画を得ることは難しい。今後は、考え直していく必要があると感じている。これまで、公共サービスを公共が整備していくという方向だったが、公共が整備していくことができなくなった。今のままで福祉や医療を財源だけで支えていくことはできなくなってきている。制度そのものを根本的に見直しする段階に来ている。

日本の人口は減っていくため、公共の財源は減っていく。日本のインフラの多くは1970年代から1990年代に造られている。これらの更新費用がこれから必要になってくる。これまでの延長で、行政がすべての分野を良くしていこうということではなく、市民が担うべき分野が出てくる。資料1でもそのような動向を踏まえている。皆がしっかりと認識する必要がある。

議題が変わっても同じような議論をしているので、今後ご意見いただきながらその都度資料を戻ったりして進めていきたい。

6) 第2次湖南省総合計画の構成について(資料6)

(事務局より上記について説明)(省略)

●会長

これからの総合計画の柱ということで、事務局からは現行計画の柱を引き継いだ形で、という提案であった。ご意見、ご質問をよろしくお願ひしたい。

●委員

田園市街地とあるが、どういうことだろうか。

●事務局

田園と市街地という意味であり、間に「、」が入っているのだが、表記が気づらくて申し訳ない。

●委員

これまでの成果として、観光地の来客数は増えているのだろうか。

●事務局

施策としては資料4-2の第7章、28ページが該当する部分である。また資料4-3の観光客数が該当する。45万人と目標設定をしており、この設定値の適確性についても議論の余地があるかもしれないが、合併後、湖南三山という呼称の普及とともに、市民の皆さんの様々な活動をしていただいております、市外からの観光客数は増えている。

●委員

大型店舗が国道1号バイパスに立地した。石部や三雲は、商店街がなくなってしまう、下田についても、あるのかないのかという状態である。既存の商業地域の保全是、この総合計画の中で触れなくても良いのだろうか。

また、工業振興の中に、岩根地先の国道1号線バイパスが入って、引き続き適地確保に努めるとあるが、あの周辺は優良農地として開発は規制されている。書かれていることと矛盾してないだろうか。

●事務局

総合計画は市のランドデザイン的なものである。43ページが土地利用のランドデザインに該当する。これに基づいて都市計画マスタープランなど分野別の基本計画を策定、見直ししていく。詳細にどの区域がというのは、それぞれ分野別のマスタープランを策定する中のご議論いただく場面、機会がある。総合計画では大枠として示していくにとどまるものである。

商店街については、基本計画の中では、既存商店街の振興について書いている。

●委員

アンケートでは買い物不便であるなどの意見が出てきている。これを踏まえて反映させるべきである。

●事務局

今回見いただいている資料は基本構想という大枠につながっていくものであり、個別具体的な詳細な点は、基本計画の内容の検討の段階でしっかりとご議論をいただきたい。

●委員

そうではなく、商業と工業を書き分けるべきだという趣旨である

●委員

体系を見て分かりづらい点は、6つの目標から右側の3つのプランに絞り込まれている

ことである。

シンプルにするのが分かりやすいのは理解するが、3という数字にこだわりすぎているのではないだろうか。三駅、三景、三業の3つのプランということで、3にこだわりすぎではないだろうか。

●事務局

特に3へのこだわりはない。

●委員

石部駅、甲西駅、三雲駅についてバリアフリーなどの整備をするのは分かるが、駅周辺となると現況から考えて、もっと抜本的に再整備する必要がある。例えば、石部駅は今のあの位置が良いのか、500m動かして中心部の活性化につなげるのか、三雲駅も西へ動かしてまちの活性化を図るのか、今後の住みよいまちづくりを進めるのに、現況だけで金がない金がないというのか、将来性を検討することくらいはしてはどうだろうか。

石部駅のバリアフリー整備をするのは良いが、あの位置で駅裏の開発ができるのだろうか。立地している企業が協力すると言っているらしいが、実際にどこまで協力いただけるかは不透明である。市として本当に本腰入れてまちづくりを進めるならば、抜本的なことも検討する必要がある。

アンケートの結果が本当に生かされているのか、疑問を感じる部分がある。

●事務局

行政が財政的に元気な時代であれば、駅を動かすことも検討できるのかもしれないが、今般の状況では、なかなか困難である。また自由意見も含めてアンケートには、そこまでの意見はなかった。

もちろんアンケートでの市民全体の意見は、しっかりと踏まえて反映させていきたい。

●委員

構成は、冊子になったときの目次のイメージと考えて良いのだろうか。

●事務局

基本的にそのような提案だと捉えていただいて結構である。

●委員

漠然と自分たちの中に落ちてこないように感じる。第一次総合計画と大差なく、他人事のように感じてしまう。

●会長

この基本構想について、まず、現行計画の踏襲は、どこまでを考えているのだろうか。

●事務局

構成の形として、こういう形で行きたいという提案である。

●会長

視点があって、理念があって、将来像があって、目標があって、という組み立ての意味である。

●委員

現行計画を精査して引き継いでいくようお願いしたい。

お金がないというような本音の話も出ている。デザインにこだわりすぎると絵にかいたモチになるのではないかと思う。1つの提案として、6つの目標を平行に並べるのではなく、相互作用を考慮しながら、優先順位をつけてはどうだろうか。上の方ほど優先順位が高いとする。予算の都合で下位の方は手をつけることができなかったが、上位はすることはできることになるはず。

●事務局

第1章から第6章というのは、市の組織と対応している部分があり、この中で優先順位をつけてランドデザインとして示すということは難しいのではないかと考えている。

7) 湖南省わかもん委員会について

(事務局より上記について説明) (省略)

●会長

若者の意見の紹介もお願いする。

●事務局

実は、野洲川が邪魔である、というような驚くような意見もあった。具体的に、集える場所が欲しい、駅前に集える場所が欲しい、というような意見が出ている。

話し合いの回数を積み重ねて成果を出していきたいと考えている。これまで2回開催し、過去の共有を行ったところであり、本来であれば今後現状分析を経て、未来のビジョンを話し合う予定であったが、総合計画への反映を考慮すると時間がないため、次回の2月24日に「わかもんが住んでみたいまち」というテーマで話し合う。

●委員

時間がないという説明があったが、若者はこれから何十年も住んでいただく必要がある。もっと多くの参加を得て自由闊達なご意見、議論をいただく必要がある。

また、話ばかりして終わっても駄目で、実際に行動することが必要。もっと時間をかけていくべき。

各区から一人ずつ参加してもらうなど、これからの若い人材の参画を得て議論をし、自分たちで組織をつくって活動するような方向に進めるべきである。この議論の中にも20代30代がもっと入るべきである。

若者が討論でき、どういう発想を持っているのかなどフリートークで意見を聞ける場づくりや、自主的な組織を作らせるきっかけが必要。

宝来坂でも「老人クラブ」でなく「シニアクラブ」という呼称にした途端に、どっと人が入った。このような発想の転換が必要である。

人口減少、少子高齢化への対策として、子育てしにくい状況を解消しなければならない。

●事務局

以前は、青年団活動が盛んで、自主的に様々な活動がなされていた。

今は、行政主導で機会を設けないと若者が集まる機会がない。そのような機会を企画、実施するNPOもない状況である。このため、市が企画、実施し、若い職員が参加をしている。

時間がないと述べたのは、資料7に掲載のメインメニューを見ると、ビジョンの議論に辿り着くまでに、かなりの回数が必要になるため、今回、総合計画を策定するのに必要なご意見を聴取するという点で、時間がないという説明であった。

わかもん委員会自体は、1年、2年で終わるものではなく、時間をかけて取り組んでいく。

●委員

総合計画に無理やり、わかもん委員会の意見を入れる必要があるのだろうか。本当に真剣に将来像を考えるのであれば、無理やり詰め込む必要はないのではないだろうか。

●事務局

わかもん委員会は、若者の意見を聴取する大事な機会として活用していきたい。

アンケート調査と同様に意見を扱っていきたいと考えている。

●会長

わかもん委員会自体は、継続して意見を聞き、施策への反映を図るということである。

●委員

わかもん委員会を継続したときに、その意見を反映させる場はあるのだろうか。

●事務局

市の計画としては、総合計画だけでなく、福祉や建設など様々な計画の検討の機会がある。そういった場で、また、総合計画の見直しの際にも反映をすることができる。

●委員

今の委員の意見に賛成である。若い人にとって楽しく面白く、暮らしやすいまちにしていく必要がある。そのためには議論することが大事だと思う。

わかもん委員会の資料を見るとKJ法を使用して話し合っている。これは40年前以上の手法で、いくらユニークな意見を言っても消されてしまう。どこかで意見をまとめ、収斂させていく段階が来る。KJ法以外の手法も使っていただきたい。

●委員

わかもん委員会の意見が、自由な意見であるほど、市政に反映されることは難しい。

自治会の活動に30歳代、40歳代の参加、協力を呼びかけた際に、「我々若手の意見が反映されない。任せてほしい。」と言われ、任せてみたら、彼らは見事にやりきった。私が自治会長をした5年間は任せることにした。その後も続いている。

意見を言うだけでなく、自ら具体的な行動、アクションに移すことが重要であり、行政がそのような対応をできるか、が問われる。それによって、わかもん委員会の成果が大きく変わる。

●事務局

委員のご意見は重々理解している。意見を反映させるだけでなく、その結果どうなったのかを見せるような方法を検討していきたい。

各区からの参画についてのご意見があったが、メンバーは随時募集中であり、委員の皆様から、参加の働きかけをお願いしたい。

●会長

若者が主人公になれるのは大事なこと、計画づくりだけでなく、若者が主人公の湖南省市をつくっていけるかが重要である。第1次総合計画では、その点あまり考えられていなかったのではないかと。理念のかなり重要な柱になってくるのではないだろうか。若い人に知恵を出していただきたい。

一応、本日本日予定の議題は、一通り確認した。

他にご意見、ご質問があれば、どこからでもおっしゃっていただきたい。

●委員

先程から人口減少の話がたびたび出てきている。近隣と比べても湖南省市は減少率が高い。若者の意見を取り入れる前に、若者が減りすぎて取り入れることが難しいという事態に陥る可能性がある、という危機感を持つ必要がある。我々もそうだし、行政も危機感を持っていただきたい。

4. その他

1) 今後の会議開催日程について

3月19日（木）午後2時
共同福祉施設2階大会議室

5. 閉会

●副会長挨拶

本日は長時間にわたりご議論いただき御苦労さまでした。次回は3月の開催という御案内があった。また、次回もどうぞよろしくをお願いしたい。簡単ではあるが、閉会のご挨拶とさせていただきます、ありがとうございました。

以上

欠席の委員からいただいたご意見の概要

- ・湖南省らしい豊かな地域づくりを進めていくために、市と県が、それぞれの役割を發揮しながら互いに連携していくという姿勢も打ち出してはどうか。
- ・今後、まち・ひと・しごと創生法に基づき別途作成する「湖南省まち・ひと・しごと総合戦略」との整合性や位置づけも整理しながら、住民に夢と希望を与える戦略となることを期待する。
- ・市町村合併の様々な特例が終了すること等を踏まえ、老朽化する公共施設等の維持管理・更新等に係る財政負担の軽減・平準化や公共施設等の最適配置の実現を図るための取り組みについても十分に配慮されたい。
- ・災害発生時の要援護者に対する「避難行動要支援者」名簿の作成の進捗はどのような状況か。
- ・交通手段、買い物、医療等への市民の評価は地域差があり、きめ細かな対応が必要である。
- ・人口減少問題に対応するため、農業改革、企業誘致、起業促進など働く場所づくりに、より一層注力すべき。
- ・引き続き「緑の分権改革」の内容を推進していくことが計画案に位置づけられているだろうか。
- ・当事者意識を持ってまちづくりへの参画を促進するため、参画意欲を向上につながる思い切った施策を講じるべき。
- ・例えば、東海道を観光の軸とすれば、甲賀市、栗東市、草津市との連携に有用であり、東海道から湖南三山等、他の観光地への誘導がしやすい。
- ・福祉のまちづくりの先進地として、今後も高齢者福祉、子育て支援も含めて充実が必要である。
- ・人権尊重の啓発は、地域と連携して各自治区レベルで実施するなど、地域コミュニティの強化と合わせて力を入れるべき。

以上